

第1章

小学生の 学習に関する意識・実態

- 「学習に関する意識・実態調査」の分析より -



第1節 小学生の学習行動

1. 学校での学習の様子

①好きな教科・嫌いな教科

小学生が好きな教科のベスト・スリーは、「図画工作」「体育」「家庭」の順で、およそ8割の子どもがこれらの教科を「好き」と回答し、第4位の「音楽」を加えて上位4教科はいずれも実技系の教科である。好きな教科には性別に大きな差があり、ジェンダー・バイアスが大きい。



あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

図1-1-1にあるように、「とても好き」と「まあ好き」の合計でみると、小学生が好きな教科のベスト・スリーは、「図画工作」が83.6%、「体育」が81.6%、「家庭」が79.6%の順で、およそ8割の子どもがこれらの教科を「好き」と答えている。これに第4位の「音楽」69.7%を加えて、小学生が好きな上位4教科はいずれも実技系であった。

これに対して、「好き」と答える割合が少ないワースト・スリーは、「社会」49.6%、「国語」54.7%、「算数」55.6%の順であり、「好き」と答える子どもは5割前後にとどまっている。いずれも非実技系の教科であった。なお、非実技系であるにもかかわらず第1回調査(1990年)で3位の71.4%であった「理科」は、第2回調査(1996年)が4位の71.3%、そして第3回調査(2001年)は5位の68.2%と数値が伸び悩み、順位で「家庭」や「音楽」に抜かれている。さらに、この11年間で大きく上昇したのは、「図画工作」と「家庭」と「音楽」の3教科である。これらのうち、「図画工作」は「体育」を抜いて好きな教科の第1位に躍進し、「家庭」と「音楽」もおよそ12

ポイントの大きな増加をみている。

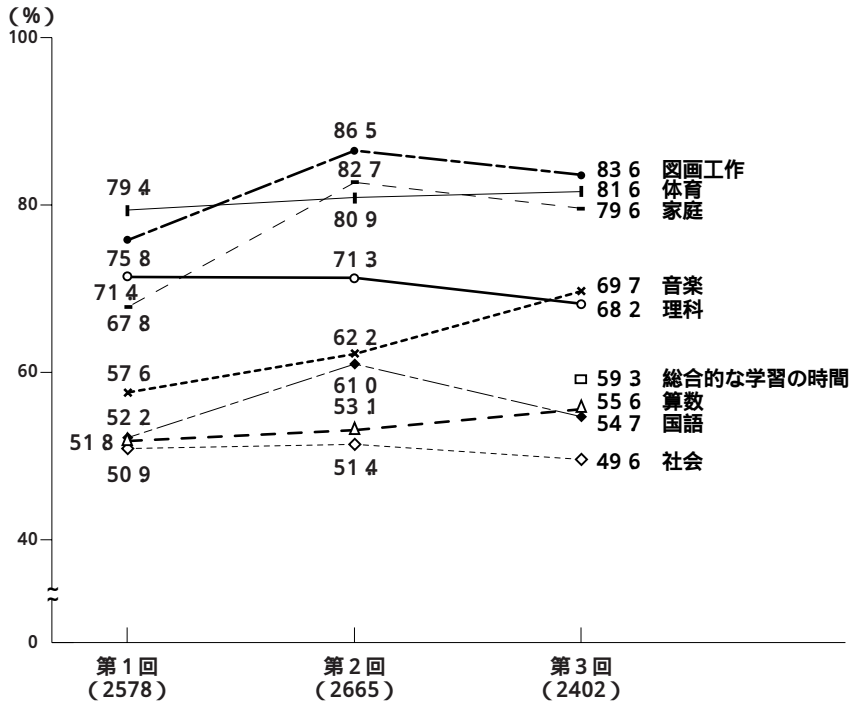
なお、新しい学習形態として期待されている「総合的な学習の時間」は59.3%と6割にとどまっている。今後の工夫が必要とされる。

また、図1-1-1で、新しく導入された「総合的な学習の時間」を除いて、残りの8教科を「好き」と答えた割合(%)を合計すると、第1回調査が506.9%であったのに対して、第2回がおよそ40ポイント増加して549.1%となったが、第3回調査はやや減少して542.6%となっている。すなわち、現在の学習指導要領が導入されたのちに、小学生が教科を好きになる割合は全体として大きく上昇したが、その後は伸び悩んでいる。

次に、表1-1-1は、第3回調査の結果から、性別に好きな教科の割合をみたものであるが、この表から好きな教科の性差がとても大きいことがわかる。女子が男子より10ポイント以上多かった教科は「国語」「音楽」「家庭」の3教科であり、反対に男子が女子より10ポイント以上多かった教科は「算数」「理科」のいわゆる理数系の2教科であった。ジェンダー・バイアスのない教育が理想とさ

れ、実際に、男女混合名簿の導入なども進め に関して、相変わらず、大きな性差が残さ
 られている。しかしながら、授業の好き嫌い れたままになっている。

図1-1-1 好きな教科(時系列)



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) 「総合的な学習の時間」にだけ、選択項目の中に「やっていない」(2.8%)が含まれる。
 注3) ()内はサンプル数。

表1-1-1 好きな教科(性別)

教科	(%)	
	男子 (1238)	女子 (1154)
国語	44.9	65.1
社会	53.4	45.4
算数	62.2	48.5
理科	75.8	60.0
音楽	55.1	85.2
図画工作	82.3	85.0
体育	86.0	76.9
家庭	70.1	89.8
総合的な学習の時間	55.4	63.6

注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) <>は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。
 注3) ()内はサンプル数。

②授業の理解度

授業を理解している割合は、「理科」が72.6%、「国語」が71.2%、「算数」が69.1%とおおよそ7割。好きな教科で Worst であった「社会」は理解度も低く61.5%である。また、授業を理解することが授業を好きになることの非常に重要な要素となっている。

Q

学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。

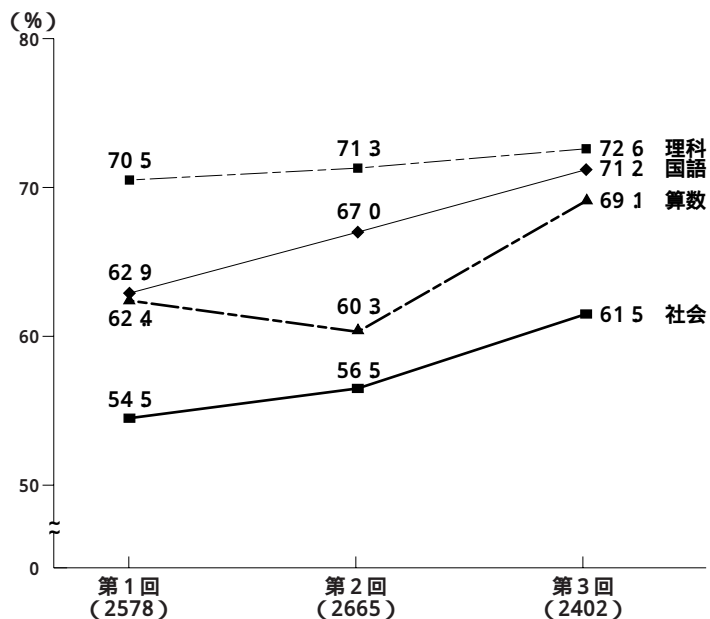
一般に、授業の理解度は「七五三」だといわれている。つまり、小学生は7割が授業を理解するにとどまり、中学生は5割、高校生は3割だというのである。言い換えると、小学生では3割が落ちこぼれ、中学生では5割が落ちこぼれ、高校生ではなんと7割が落ちこぼれであるとされている。図1-1-2で、第3回調査の結果をみると、小学生についてはほぼその説が裏づけられる結果となった。5段階の選択肢のうち、「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」を合計し

た割合をみると、授業を理解している割合は、「理科」が72.6%、「国語」が71.2%、「算数」が69.1%とおおよそ7割となっている。ただし、好きな教科で Worst であった「社会」は理解度も低く61.5%となっている。

また、理解度の時系列の変化では、「理科」が微増であった他は、他の3教科では第1回調査よりも第3回調査のほうが7～8ポイント理解度が高まっている。授業はわかるようになってきている。

図1-1-3は、性別に授業の理解度をみ

図1-1-2 授業の理解度(時系列)



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」の合計。

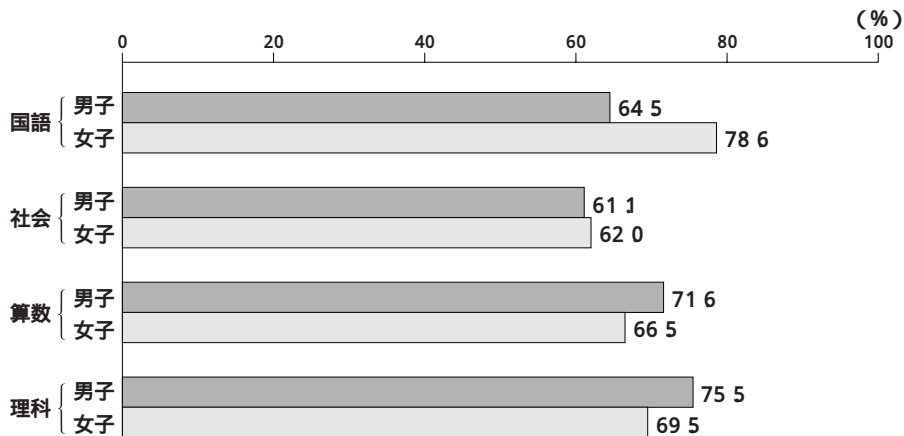
注2) ()内はサンプル数。

た結果である。「国語」の理解度で女子が78.6%に対して男子が64.5%となっている。「国語」はジェンダー・バイアスの大きな教科である。反対に、男子のほうが女子よりも理解度が高かったのは、「算数」(71.6%対66.5%)と「理科」(75.5%対69.5%)でそれぞれ男子のほうが5～6ポイント高くなっている。

最後に、表1-1-2で、授業の理解度と授業の好き嫌いの関係を見る。容易に予想できるように、授業を理解することが授業を好きになることの重要な要素となっている。「国語」が「わかる」(「ほとんどわかっている」「だいたいわかっている」と回答した)子ども

もは65.9%が「国語」が「好き」と答えているのに対して、「わからない」(「半分くらいわかっている」「あまりわかっていない」「ほとんどわかっていない」と回答した)子どもは27.3%が「国語」が「好き」と答えるにとどまっている。「社会」でも同じく65.7%対24.1%、「理科」でも81.3%対33.4%、そして「算数」ではなんと72.3%対18.2%となっている。教科を好きになることは、新学力観の観点からすると、とても大切であることはいうまでもないが、教科を好きになるに際しても、授業がわかることがとても重要な要素となっているのである。

図1-1-3 授業の理解度(性別)



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「だいたいわかっている」の合計。

注2) サンプル数は男子1238人、女子1154人。

表1-1-2 授業が好きな割合(授業の理解度別)

		人数(人)	授業が好きな割合(%)
国語	わかる	1711	65.9
	わからない	679	27.3
社会	わかる	1477	65.7
	わからない	912	24.1
算数	わかる	1659	72.3
	わからない	727	18.2
理科	わかる	1745	81.3
	わからない	637	33.4

注1) 各教科とも「わかる」は、「ほとんどわかっている」「だいたいわかっている」と回答した児童。「わからない」は、「半分くらいわかっている」「あまりわかっていない」「ほとんどわかっていない」と回答した児童。

注2) 「授業が好きな割合」は、それぞれの教科について「とても好き」「まあ好き」という回答の合計。

③ががんばって勉強したい教科

ががんばって勉強したい教科（非実技系）は、「算数」が断然多く50.9%、続いて「国語」が33.6%、「社会」が32.5%、「理科」が24.6%、「総合的な学習の時間」が21.7%になっている。また、教科の理解度とががんばりたい教科とはほとんど相関がない。つまり、その教科を「わかる」「わからない」とががんばって勉強したいか否かは関係がない。

Q

あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。特にががんばりたいと思うものを3つまで選んでください。

次に、ががんばって勉強したい教科についてみてみよう。図1-1-4①は、「国語」「社会」「算数」「理科」「総合的な学習の時間」の非実技系の5つの教科（学習）をががんばって勉強したいと思うかを尋ねた結果である。なお、ここでの質問形式は、9教科（学習）の中から3つを選んでもらう形式であり、実際には、もっと多くの子どもがそれぞれの教科をががんばって勉強したいと思っているものと考えられる。

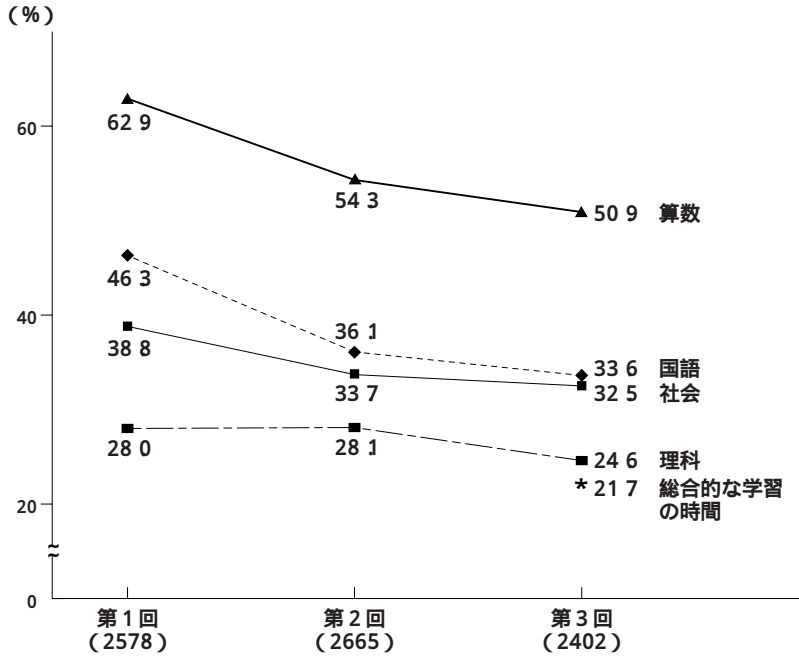
まず、第3回調査の結果に着目すると、「算数」が断然多く50.9%とおよそ半分の子どもが選んでいる。続いて「国語」が33.6%、「社会」が32.5%でおよそ3分の1の子どもが選んでいる。これらに対して、「理科」が24.6%、「総合的な学習の時間」が21.7%とこの2つの教科（学習）では2割台になっている。

時系列でみると、第1回調査から第2回調査にかけて、「理科」以外の教科は、ががんばって勉強したい割合が減少している。そして、第2回調査から第3回調査にかけては「理科」も含めてすべての教科で減少をみている。ただし、ここで統計的に注意しておかなければならないことがある。第3回調査からは選択肢に「総合的な学習の時間」が加わった結果、子どもたちはそれまで8教科の中から3つまでを選んでいたので、9教科（学習）の中から3つまでを選ぶようになったというこ

とである。したがって、ががんばって勉強したい割合は、それまでと比べて平均して9分の8に減少しているということである。したがって、第3回調査の「算数」は50.9%であるが、これまでと同じ条件ならば、8分の9倍して57.3%が選択されていたものと推測される。同じく、「国語」は37.8%、「社会」が36.6%、「理科」は27.7%と推測され、この推測値をもとに時系列の変化をみると、第2回調査から第3回調査への変化は「算数」「国語」「社会」の3教科では、ががんばって勉強したい割合がやや上昇に転じていることになる。そして前述の第1回調査から第2回調査までの変化と合わせてみると、第1回調査から第2回調査にかけて、「理科」以外の教科では、ががんばって勉強したい割合が減少し、第2回調査から第3回調査への変化は「算数」「国語」「社会」の3教科では、ががんばって勉強したい割合がやや上昇に転じている。

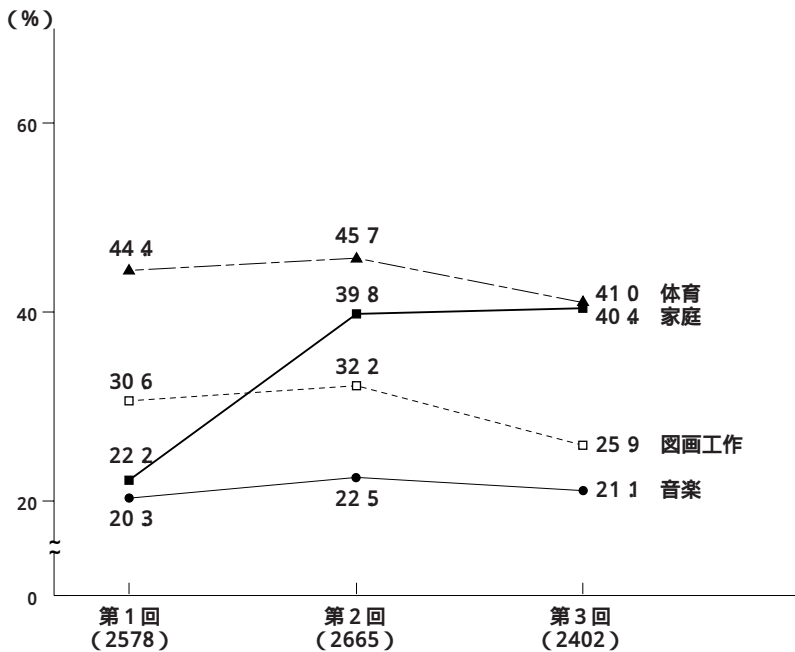
次に、図1-1-4②で、実技系の教科のががんばって勉強したい割合をみると、「体育」がもっとも高く41.0%、続いて「家庭」が40.4%とこの2教科が4割を超えている。これに対して、好きな教科ベスト・ワンだった「図画工作」は25.9%と4分の1にとどまり、さらに、「音楽」では21.1%の2割強となっている。過去11年間の変動では、「家庭」が大きく伸び、「図画工作」が伸び悩んでいる。

図1 - 1 - 4 がんばって勉強したい教科（非実技系）（時系列）



注1) 第1回、第2回は8教科中から3つまでを選択、第3回は9教科中から3つまでを選択する。
注2) ()内はサンプル数。

図1 - 1 - 4 がんばって勉強したい教科（実技系）（時系列）



注1) 第1回、第2回は8教科中から3つまでを選択、第3回は9教科中から3つまでを選択する。
注2) ()内はサンプル数。

続いて、がんばって勉強したい教科を性別にみると、表1-1-3にあるような性差がみられた。男子のほうが多かったのが、「体育」(男子46.5%対女子35.0%)と「国語」(36.1%対31.1%)、「理科」(27.2%対22.0%)、「図画工作」(29.9%対21.5%)であった。これらとすでにみた、性別にみた好きな教科との関連をみると、「国語」は女子のほうが好きな教科であり、「理科」は男子のほうが好きな教科である。性別にみた教科の好き嫌いとは、一致する場合としない場合があることがわかる。

反対に女子のほうが多かったのは「家庭」(男子34.4%対女子46.9%)、「算数」(47.2%対54.7%)、「総合的な学習の時間」(19.5%対24.0%)であった。すでにみた性別の好きな教科との関連では、「家庭」は女子のほう

が好きな教科であり、「算数」は男子のほうが好きな教科である。ここでも、性別にみた教科の好き嫌いとは、一致する場合としない場合がある。

最後に、図1-1-5で、教科の理解度別にがんばって勉強したい教科をみてみよう。結論から述べると、理解度とがんばりたい教科とはほとんど相関がない。「わかる」「わからない」とがんばって勉強したい教科の関係は、「国語」(「わかる」33.2%対「わからない」35.2%)、「社会」(32.6%対32.5%)、「算数」(49.4%対55.0%)、「理科」(24.8%対24.6%)となっており、「算数」でわずかな差があるだけである。「わかる」からがんばって勉強したいという子どもと、「わからない」からがんばって勉強したい子どもの両者がいるものと思われる。

表1-1-3 がんばって勉強したい教科(性別)

(%)

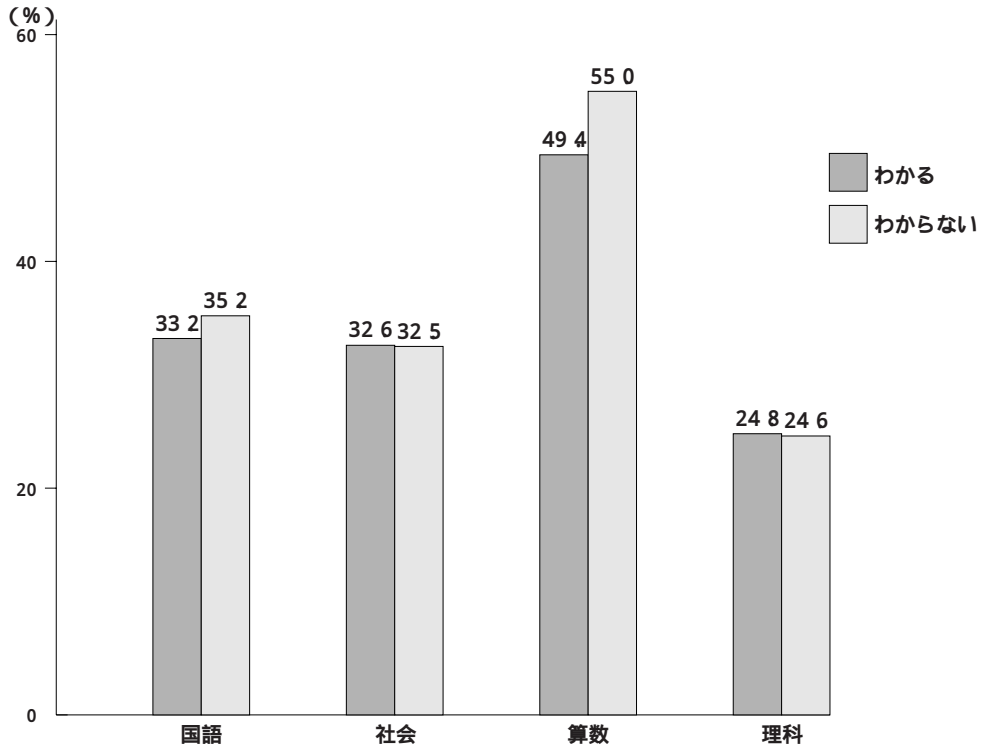
	男子(1238)		女子(1154)
国語	36.1	>	31.1
社会	31.4		33.8
算数	47.2	<	54.7
理科	27.2	>	22.0
音楽	19.6		22.7
図画工作	29.9	>	21.5
体育	46.5	≫	35.0
家庭	34.4	≪	46.9
総合的な学習の時間	19.5		24.0

注1) 9教科中から3つまでを選択する。

注2) ≪ ≫は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

図1-1-5 がんばって勉強したい教科（非実技系）（教科の理解度別）



注1) 各教科とも「わかる」は、「ほとんどわかっている」「だいたいわかっている」と回答した児童。
「わからない」は、「半分くらいわかっている」「あまりわかっていない」「ほとんどわかっていない」と回答した児童。

注2) 9教科中から3つまでを選択する。

注3) サンプル数は2402人。

④授業の受け方

「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」が88.8%など、小学生の授業中の学習態度は全体としてはまじめである。しかし、「授業時間になっても教室に入らない」が10.6%など、授業に参加・集中しない傾向もややみられる。また、新学力観のもとで授業がわかりやすく楽しくなり、「落ちこぼれ」と呼ばれる子どもたちが減少しているが、その反面、「吹きこぼれ」と呼ばれる子どもたちが増加している。



あなたの授業中の様子についてお聞きします。

近年、マスコミが学級崩壊などという恐ろしい言葉で小学校の授業が困難になったと訴えている。しかし、実態調査を通してはそのような恐ろしい感じが浮かび上がってくることはない。第3回調査でも、表1-1-4にみられるように、学習態度に関しては、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」が88.8%（「よくある」と「時々ある」の合計）、「友だちの意見や発表をしっかりと聞く」が87.1%と両者ともに9割近くもあり、子どもたちは非常にまじめに授業を受けている。さらに、「テストで間違えた問題をやり直す」が76.8%、「自分の考えや意見を発表する」が55.4%、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」が46.9%、「授業でわからないことは、あとで先生に質問する」も30.7%いた。積極的に勉強している様子がうかがえる。性別では、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」「友だちの意見や発表をしっかりと聞く」「テストで間違えた問題をやり直す」「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」などで、女子のほうが学習態度がよい。

また、授業中の逸脱行動に関しては、「授業中にいねむりをする」が4.1%、「授業中に、他の科目や塾の勉強をする」が5.3%と逸脱率はわずかな値になっている。子どもたちはまじめである。ただし、「授業中、勝手に席

を離れる」が7.0%、「授業時間になっても教室に入らない」が10.6%、「先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける」が12.0%などと答えている。40人学級に換算すると、それぞれの項目で3人から4人が、授業に「参加していない」ことになる。さらに、「近くの人とおしゃべりする」が65.0%、「ぼーっと他のことを考えている」が40.2%と回答しており、授業に集中しない傾向もみられる。すでにみたように、板書をしっかりと行うなど、小学生はまじめに授業を受けており、そうした意味では学級崩壊と呼ぶような状況はない。しかしここにもみるように、子どもたちは従順に学級の規範にしたがっているわけではない。授業をより一層楽しく、興味深いものにすることが求められる。また、その際には、すべての項目で男子のほうが逸脱率が高い割合になっていることへの配慮も求められる。学校教育では、あまりに長い間、男子は逸脱しやすいものと決めつけられ、男子の授業不適応があきらめ＝放任されがちであった。

なお、授業の難しさについては、「授業の内容が難しいと思う」が52.6%と5割強、「授業の内容が簡単すぎると思う」が42.1%と4割強になっている。また、「本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う」が78.7%、「テストで間違えるとくやしいと思う」が77.5%と、克己心や反発力にかかわる項目で高い割合の回答になっている。

表1-1-4 授業の受け方(性別)

(%)

	全体(2402)	男子(1238)	女子(1154)
学習態度			
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	88.8	84.1	< 93.8
友だちの意見や発表をしっかりと聞く	87.1	83.6	< 90.8
テストで間違えた問題をやり直す	76.8	73.1	< 81.0
自分の考えや意見を発表する	55.4	59.8	> 50.6
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	46.9	41.8	≪ 52.3
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	30.7	32.3	28.8
難易度			
授業の内容が難しいと思う	52.6	49.6	< 55.9
授業の内容が簡単すぎると思う	42.1	48.0	≫ 36.0
克己心・反発力			
本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う	78.7	78.1	79.5
テストで間違えるとくやしいと思う	77.5	76.0	78.8
逸脱			
近くの人とおしゃべりをする	65.0	68.6	> 60.8
ぼうっと他のことを考えている	40.2	42.9	> 37.2
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	26.3	28.1	24.5
先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける	12.0	15.8	> 7.8
授業時間になっても教室に入らない	10.6	15.4	> 5.6
授業中、勝手に席を離れる	7.0	10.2	> 3.7
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	5.3	7.0	3.5
授業中にいねむりをする	4.1	5.2	2.9

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ≪ ≫は男女で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

次に、授業の受け方の11年間の変化を追ってみよう。「学習に関する意識・実態調査」では、表1-1-5にある10項目の授業の受け方について、第1回調査から連続して尋ねている。まず、学習態度に関連する項目では、「黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く」が82.8% 87.8% 88.8%、「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」が37.4% 45.8% 46.9%となっており、ノートをとる割合が増加している。一方、「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」は33.9% 36.7% 26.3%と減少している。小学生の授業中の学習態度はまじめになってきている。

また、興味深いのは、「落ちこぼれ」、「吹きこぼれ」といわれている授業の難易度についての変化である。落ちこぼれにかかわる質問である「授業の内容が難しいと思う」は第1回調査の41.5%から第2回調査には55.4%

と14ポイント近く高くなったが、第3回調査には52.6%とやや減っている。つまり、第3回調査は第2回調査と比べてわずかではあるが、授業がわかるようになってきている。しかしながら、吹きこぼれにかかわる質問である「授業の内容が簡単すぎると思う」に対しては27.5% 35.2% 42.1%と一貫して高くなっている。つまり、吹きこぼれが進んでいる。新学力観のもとで、授業がわかりやすく楽しくなり、落ちこぼれと呼ばれる子どもたちが減少しているが、同時に吹きこぼれと呼ばれる子どもたちが増加している。

次に、表1-1-6は、成績の自己評価別に授業の受け方をみたものである。残念ながら、成績ごとの授業中の様子には大きな差があった。成績自己評価の下位者のほうが多かった回答は、「授業の内容が難しいと思う」という、授業の難しさに関する項目と「マンガをかいたり、文房具で遊ぶ」「ぼうっと他

表1-1-5 授業の受け方(時系列)

	(%)		
	第1回(2578)	第2回(2665)	第3回(2402)
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	82.8	87.8	88.8
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	37.4	45.8	46.9
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	26.0	31.8	30.7
ぼうっと他のことを考えている	38.0	39.3	40.2
授業の内容が難しいと思う	41.5	55.4	52.6
授業の内容が簡単すぎると思う	27.5	35.2	42.1
近くの人とおしゃべりをする	66.3	66.4	65.0
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	33.9	36.7	26.3
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	3.2	8.3	5.3
授業中にいねむりをする	3.5	5.2	4.1

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) ()内はサンプル数。

のことを考えている」「授業時間になっても教室に入らない」「授業中、勝手に席を離れる」などの逸脱に関する項目であった。反対に、成績自己評価の上位者に多かった回答は「授業の内容が簡単すぎると思う」「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことは

ノートに書く」「友だちの意見や発表をしっかりと聞く」「自分の考えや意見を発表する」などの学習態度に関する項目や「テストで間違えるとくやしいと思う」「テストで間違えた問題をやり直す」といった克己心や反発力に関する項目であった。

表1 - 1 - 6 授業の受け方（成績の自己評価別）

	(%)			
	上位(750)	中位(809)	下位(775)	差
授業でわからないことは、あとで先生に質問する	31.9	32.8	26.5	>
授業の内容が難しいと思う	29.7	56.4	71.6	≪
授業の内容が簡単すぎると思う	60.8	38.3	27.7	≫
授業中にいねむりをする	2.8	3.0	6.1	
マンガをかいたり、文房具で遊ぶ	21.5	23.5	33.5	≪
近くの人とおしゃべりをする	60.9	64.6	69.7	<
授業中に、他の科目や塾の勉強をする	4.7	5.1	6.2	
ぼうっと他のことを考えている	31.9	38.6	51.0	≪
黒板に書かれたことを、きちんとノートに書く	90.8	91.1	84.1	>
授業時間になっても教室に入らない	8.0	9.6	13.8	<
授業中、勝手に席を離れる	4.5	6.6	9.7	<
先生に注意されても友だちとおしゃべりを続ける	9.6	9.9	16.4	<
黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く	54.7	47.8	37.8	≫
本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う	80.8	80.2	75.2	>
テストで間違えるとくやしいと思う	80.1	79.1	72.9	>
テストで間違えた問題をやり直す	83.1	81.8	65.0	≫
友だちの意見や発表をしっかりと聞く	92.9	89.5	78.6	≫
自分の考えや意見を発表する	75.2	53.8	38.3	≫

注1) 成績の自己評価は、「あなたの今の成績はクラスの中でどのくらいですか」の項目に、「1(上のほう)~3」と回答した児童を「上位」、「4(真ん中)」を「中位」、「5~7(下のほう)」を「下位」とした。

注2) ≪ ≫は上位と下位で10%以上、< >は5%以上差があるもの。

注3) ()内はサンプル数。

最後に表1-1-7で、克己心・反発力に関連して、「テストで間違えるとくやしいと思う」という気持ちが「テストで間違えた問題をやり直す」という行動に結びつくか否かをみてみよう。この表は、タテに100%をとってあるが、テストを間違えて「くやしい」と思った子どもは約8割の80.6%が「やり直

す」と答えている。これに対して、「くやしくない」と思う子どもは34.7%が「やり直さない」で終わる。とはいえ、約3分の2にあたる64.4%がやり直しをする。くやしくても2割がやり直さず、くやしくなくても3分の2がやり直すという結果になっている。

表1-1-7 テスト間違えをやり直すか(テスト間違えをくやしいと思うか別)

(%)

		テストで間違えるとくやしいと思う	
		くやしい (1861)	くやしくない (519)
テストで間違えた問題をやり直す	やり直す	80.6	64.4
	やり直さない	19.0	34.7
	無答・不明	0.4	1.0

注1)「やり直す」は、「テストで間違えた問題をやり直す」の項目の「よくある」と「時々ある」の合計。「やり直さない」は、「あまりない」と「ほとんどない」の合計。

注2)「くやしい」は、「テストで間違えるとくやしいと思う」の項目に「よくある」「時々ある」と回答した児童。「くやしくない」は、「あまりない」「ほとんどない」と回答した児童。

注3) ()内はサンプル数。

⑤好きな学校の勉強方法

小学生が好きな勉強方法は、第1位が「パソコンを使ってする勉強」で91.3%。続いて、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」などで、いずれも8割を超える子どもが「好き」と回答している。新学力観や総合的な学習などと結びつきやすい勉強方法と同時に、従来からの基本的な勉強方法も好かれている。



あなたは、次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか。

図1-1-6は、学校のさまざまな勉強方法を好きか嫌いかわねた結果である。「とても好き」「好き」を合計して、もっとも多かったのは、「パソコンを使ってする勉強」で91.3%、9割を超える高い値であった。続いて第2位以下は、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」が86.9%、「グループで何かを考えたり調べたりする授業」が85.2%、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」が84.8%、「友だちと話し合いながら進めていく授業」が81.8%となっている。ここまでの5つが8割を超えていた。新学力観や総合的な学習などと結びつきやすい勉強方法が高い値を示している反面、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」という従来からの基本的な勉強方法も8割を超える値となっていることが興味深い。

反対に、好きな割合が低かったのは「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」の51.3%で、続いて、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」が54.9%でここまですべて5割台であり、小学生は個人作業や工夫しての情報の発信がそれほど好きでない。さらに、「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」が69.4%、「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」が67.6%、「ドリルやプリントを使ってする授業」が67.1%で、この3つは6割台で

あった。「グループで何かを考えたり調べたりする授業」が好きなのに、「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」が好きでないといった主体性・自主性の弱さ、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」が好きなのに「いろいろな人に聞きに行っている授業や調査」が好きでないといった社交性の弱さがみとれる。

なお、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」は84.8%と高い値であったが、「とても好き」だけを見ると、わずか24.1%で低い値であった。チョーク・アンド・トークという基本的な授業方法は「好き」ではあるが、「とても好き」には至らない勉強方法である。

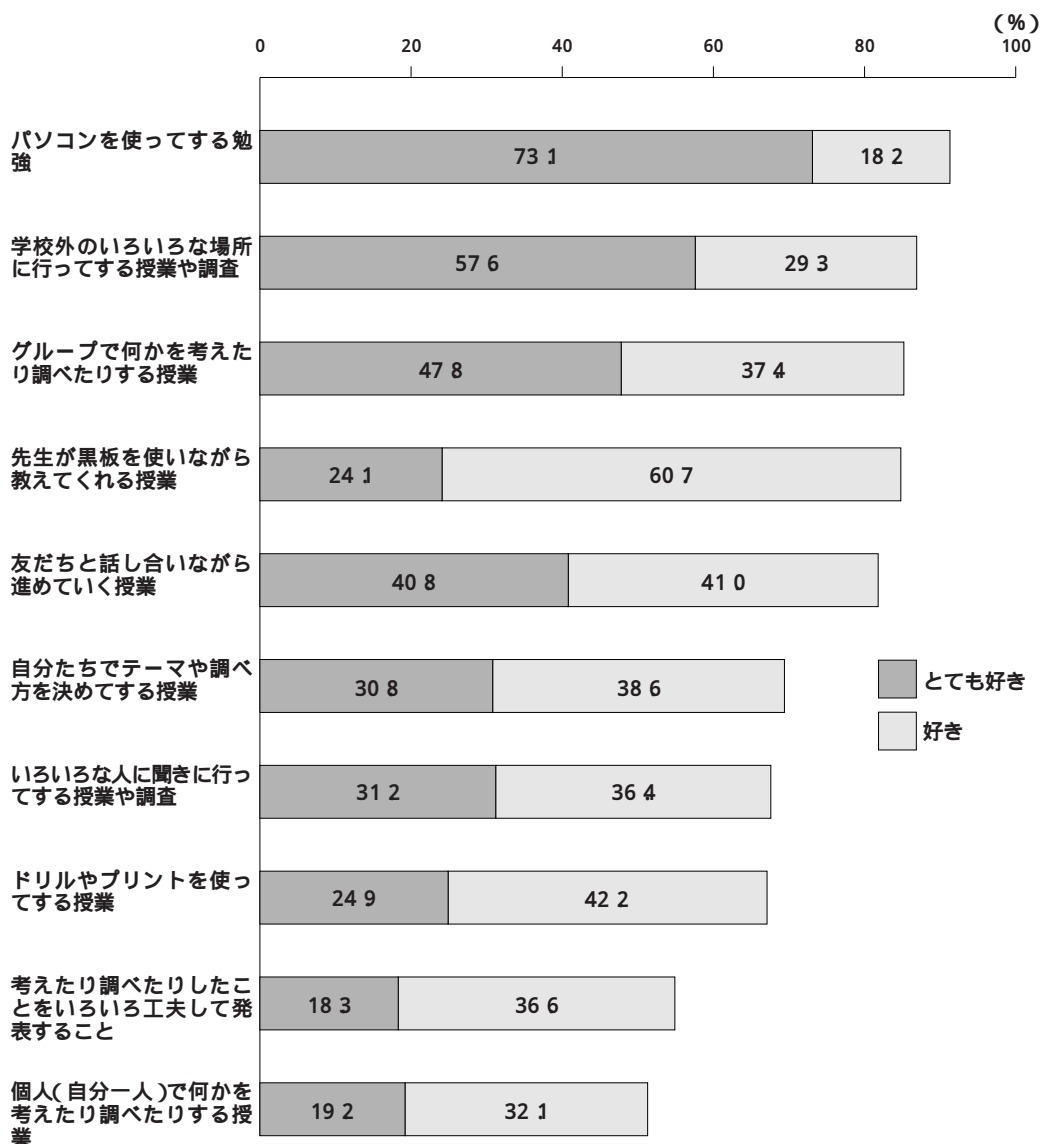
続いて、図1-1-7で、性別に小学生が好きな勉強方法をみると、「パソコンを使ってする勉強」は、男女ともに9割以上が「好き」と答えており性差がほとんどない。それ以外では、今回質問した勉強方法の中で、男子のほうが女子よりも好きな割合が高いのは「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」で男子がわずかに高いだけで、全体的にみて、女子のほうが好きな割合が高いことがわかる。特に、「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」「友だちと話し合いながら進めていく授業」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」「自分たちで

テーマや調べ方を決めてする授業」「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」などで女子のほうが高い割合になっている。近年、授業場面で用いられるようになってきた勉強方法の多くは“女子好み”の勉強方法である。

最後に、表1-1-8で、子どもの成績の自己評価別に、好きな勉強方法をみてみよう。全般に成績自己評価の「上位」の子どもが「好

き」と答える割合が高い。特に、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」で成績自己評価の上位者が68.5%に対して下位者が41.9%、「個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業」で同じく61.2%対41.8%と大きな差が開いている。その他、「ドリルやプリントを使ってする授業」「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」「いろいろな人に聞きに行つてする授業や調査」でも上位者と下位者で、10ポイ

図1-1-6 好きな学校の勉強方法



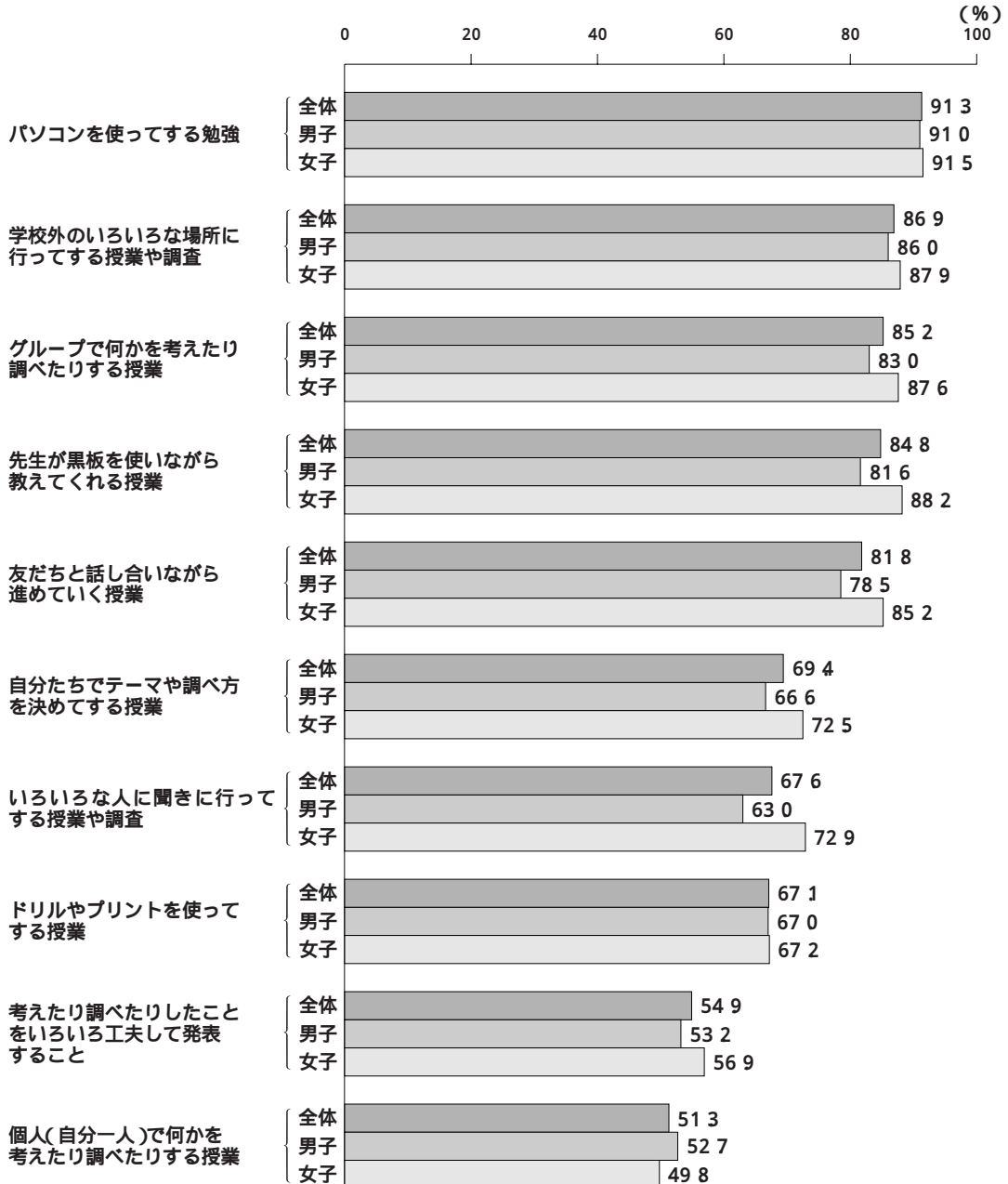
注) サンプル数は2402人。

ント以上の差になっている。

これに対して、成績の自己評価別の「好き」な割合の差が比較的小さい勉強方法は「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」「グループで何かを考えたり調べたりする授業」

「パソコンを使ってする勉強」「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」「友だちと話し合いながら進めていく授業」である。成績自己評価の下位者への配慮をしながらの勉強方法の構成・組み合わせが求められる。

図1-1-7 好きな学校の勉強方法（性別）



注1) 数値は「とても好き」と「好き」の合計。

注2) サンプル数は全体2402人、男子1238人、女子1154人。

表1-1-8 好きな学校の勉強方法（成績の自己評価別）

（％）

	上位（750）	中位（809）	下位（775）
パソコンを使ってする勉強	93.2	92.2	89.0
学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査	90.3	87.1	84.4
グループで何かを考えたり調べたりする授業	87.6	88.3	80.0
先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	86.7	87.9	79.4
友だちと話し合いながら進めていく授業	84.0	85.3	76.3
自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	76.5	69.8	63.1
いろいろな人に聞きに行っている授業や調査	73.2	69.2	60.6
ドリルやプリントを使ってする授業	74.0	69.1	58.8
考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること	68.5	54.6	41.9
個人（自分一人）で何かを考えたり調べたりする授業	61.2	50.8	41.8

注1）成績の自己評価は、「あなたの今の成績はクラスの中でどのくらいですか」の項目に、「1（上のほう）～3」と回答した児童を「上位」、4（真ん中）」を「中位」、5～7（下のほう）」を「下位」とした。

注2）数値は「とても好き」と「好き」の合計。

注3）（ ）内はサンプル数。